



No. 102

発行人 渋沢 茂

発行所・事務局一般社団法人千葉県社会福祉士会
〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港7-1

塚本千葉第5ビル3階

TEL 043-238-2866

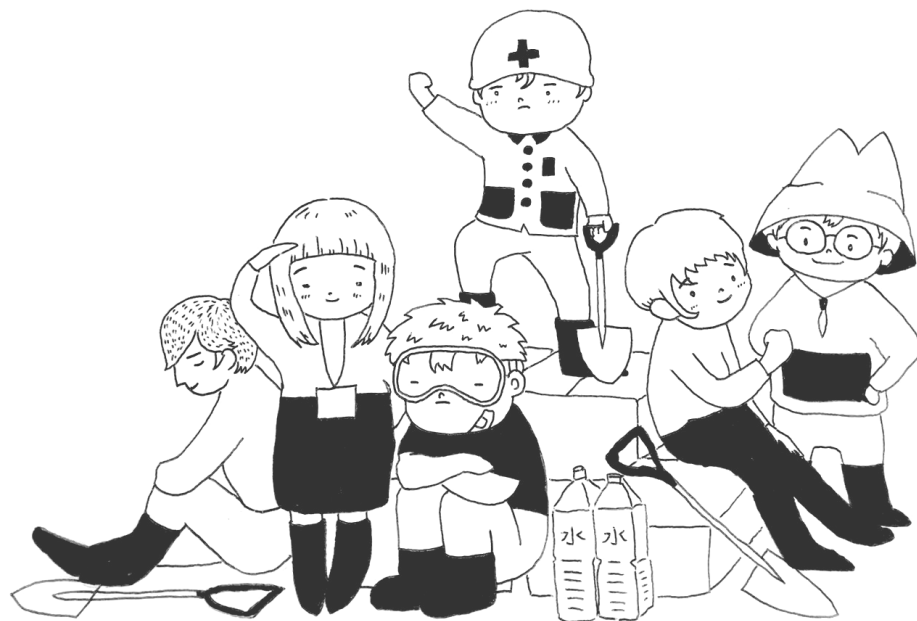
Fax 043-238-2867

<http://www.cswchiba.com/>

E-mail: office@cschwiba.com

※ 点と線はメール配信でも読めます！

特集 被災地支援報告



台風15号による千葉県内の住家被害数 67,369戸（令和元年 9月 5日）

台風19号による千葉県内の住家被害数 7,032戸（令和元年10月12日）

前線による大雨による千葉県内の住家被害数 4,844戸（令和元年10月25日）

総務省消防庁発表（令和元年度第40報・第62報・第63報）より引用。

いずれも激甚災害に指定され、10月25日の大雨は、平年の10月に降る1か月分の降水量を、わずか半日で上回るものでした。ボランティアの方々、懸命に活動する現地の社会福祉士、応援に向かった社会福祉士、異なる場所や立場にいても、目的同じく協働するなかで、どんなことを感じたのでしょうか。

《 特集 》

- 2 被災地支援報告
 - 被災地の社会福祉として思うこと
 - 災害ボランティアで出会った沢山の方々へ
 - 民間支援団体に聞いてみた
 - 専門性の発揮と土砂かき
 - 所感（自ら関わることで見えること）
- 9 社会福祉士のわ
- 10 拡大地域集会
- 11 頑張ろう千葉
- 12 事務局便り

特集 被災地支援報告

災害ボランティアセンターとは、被災地が困っている問題を解決することを目的とした、災害時に設置される被災地でのボランティア活動を円滑にすすめるための拠点です。一般的には、被災を受けた地域の市町村社会福祉協議会が行政等との協議のうえ設置します。

一九九五年の阪神淡路大震災をきっかけに、日本で災害時にボランティアが活躍するようになりましたが、ボランティアが被災地にかけつけただけでは、うまく統制をとることができず、せっかく被災地にかけつけたのに、活動が効果的に行えないこともあり、災害ボランティアセンターの設置が必要となりました。

どういうことをするの？

災害ボランティアセンターでは
①被災地のニーズの把握 ②その
ニーズに伴うボランティア依頼の

発信 ③ボランティア受け入れ拠点の立ち上げ ④ボランティア活動に必要な資機材等の確保、貸出 ⑤ボランティアへの依頼内容の詳細の説明 ⑥活動実施後の報告受け取り などを行います。

被災したなかで、日々変わるニーズをキャッチし、必要な活動内容、人数を発信し、被災者を支援すると共に、活動するボランティアを支えることが災害ボランティアセンターの役割となります。

令和元年 千葉県での開設状況

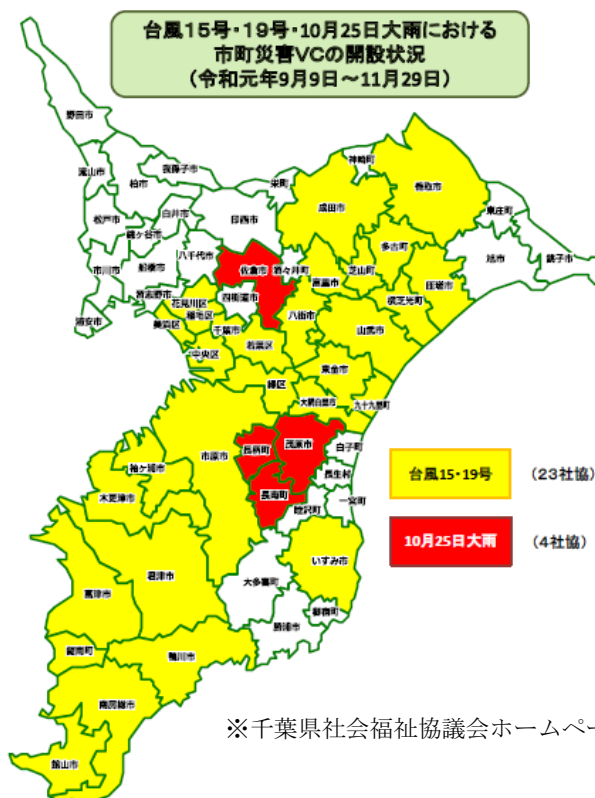
二七市町村において災害ボランティアセンターが設置されました（図参照）。開設日数は、平均三三・八日でした。また、被災しても災害ボランティアセンターを設置せずに、通常のボランティアセンターのコーディネート運営で被災者の支援を行ったところもありました。

九月九日～十一月二九日の間、支援ニーズ対応件数（完了件数）は一万二九三一件、ボランティア活動人数（延べ人数）は、三万七七一一人でした。

運営支援って？

災害ボランティアセンターは被災した社会福祉協議会等が設置・運営しますが、その職員だけでは十分な機能を果たすことができません。

九月九日～十一月二九日の間、被災地では、被災を受けていない他市町村社協職員や、運営支援を得意とするボランティア団体やNPO・NGO法人、また、他市、他県のソーシャルワーカーなどが応援に入り、運営を支援しました。



『被災地の社会福祉として思うこと』

社会福祉法人館山市社会福祉協議会
粕谷 聡（かすや さとし）



まず、初めに、台風十五号・十九号の被災において、大勢の皆様からご支援いただいたことに感謝申し上げます。

私は、令和元年六月より館山市社会福祉協議会に入職しました。入職して三か月で災害が発生しました。これまで、大きな災害とは

無縁だった館山にとって、今回の台風被害は未知の出来事でした。誰しもが、大きな災害は発生しないという慢心があったと思います。未知の災害による支援への影響は図りられないものでした。指揮系統が混乱し、誰が何をどの様に対応すべきか？話し合う時間もなく、災害ボランティアセンターが立ち上がりました。

このような状況において助けとなったのが、支援したいという気持ちがつないだ仲間でした。また、県内だけでなく、他県からも多くの方々が館山の状況を理解し、的確な助言と支援をしていただき、災害ボランティアセンターの体制を構築することができました。ただ、課題も多くありました。社会福祉協議会として、普段からの災害時に対するネットワークが希薄で、地域アセスメントも不十分だったこともあり、支援に影響を与えました。また、自身としても「考えること」の難しさを痛感しました。どのような状況であっても「相手の立場を考えて行動すること」

が求められますが、職員の大半が自身や身内、周囲が被害を受けた状況で、社会福祉士としてふさわしい行動がとれていたか疑問に思っています。考えていても実行に移せない現状があり、常に冷静な判断が出来ていなかったと感じていました。そんな時、仲間のある言葉で踏ん張ることができました。

それは、「私たちがついているから」という言葉でした。頑張らなければならぬ時、いつもと違うことをする時、苦しい時、誰かが支えてくれているということが大きな力となります。それは、被災者にとっても同様で、被災者の目線に立ち、少しでも不安を軽減する。その為に何ができるか、何をすべきか考え、必要なアクションを冷静に行うこと。それが被災地に存在する社会福祉士の役割であると感じました。また、災害時よりも、平時から社会福祉士として、コミュニティソーシャルワークを実践し、どのような場面においてもその地域の社会福祉士として、役割をはたせるように活動してい

くことが重要であると思い知りました。そんな存在になれる様にこれからも精進していきたいと思えます。たくさんの方々からの声援に感謝し、報告を終わります。

『被災地の社会福祉として思うこと』

館山市 健康福祉部高齢者福祉課 社会福祉士 野口雄一

（のぐちゆういち）



社会福祉士、仲間の安心感

令和元年台風十五号・十九号並びに十月二五日の大雨において被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、災害支援、復興支援、物資支援等、ご支援ご協力いただき感謝しております。さて、私自身「被災者」となったことは人生初の出来事です。いろ

いろんな感情や想い、ゆらぎを感じるなど「自己覚知」ができたのではないかと感じています。

台風十五号が過ぎ去った後、停電が長期化し、一部地域では、断水が発生、携帯電話も不通となり、通信手段が遮断されました。今まで、当たり前だったものが無くなり、普通の生活のありがたさを痛感しました。

館山市は高齢化率三九・一％(九月)で、交通手段は自家用車が大多数です。その中で印象に残っていることは、信号のついていない交差点、灯りのないトンネル、家にも街にも灯りのない真っ暗な夜、今まで経験したことのない不思議な体験でした。灯りが無いということはこんなにも心を暗くするのか、水が出ないということはあるにも不安なことなのかと感じました。当初は情報もほとんどなく余計に不安が募りました。

時間が経つに連れ、状況が少しずつ分かってきました。被害の大きな地域、逆に通常の生活とあまり変わらない地域等、地域格差が

大きくありました。そこで、優先順位を定め、支援対象者の安否確認、ニーズ確認を開始していきました。そこには、地域の力があり、区長や民生委員中心に安否確認を行えている地域、個別には関係者が安否確認を終えていることもありました。直接訪問の必要な地域や人への対応については、市職員、他、応援に来てくれた専門職団体の協力もありました。こんなにも多くの支援団体が来てくれることに驚きました。これまでに数々の災害地支援に入られている方が多く、対応や支援方法について助言をいただき、日に日に支援体制、進め方も軌道に乗っていきましました。

また、社会福祉士会にも応援に入っていただき、私自身はとても安心しました。初めての被災対応で、自分たちで考え進めている支援が正しいのかどうか、不安があります。外からの目、福祉専門職の目で、支援の進め方を評価、助言していただくことで、安心できたことを覚えていきます。

『災害ボランティアで出会った
沢山の方々へ』

社会福祉法人真和会
ケアハウス四季の里

生活相談員 岩間 太一

(いわま たいち)



(右) ボランティア畑山啓氏

(左) 執筆者

去年九月、台風十五号による千葉県被害をニュースで観て、「自分が住んでいる県で、ましてや千葉県社会福祉士会に所属していて、何かしなくちゃいけないんじゃないか」とずっと考えていました。

同世代・同職の同志も同じことを考え悶々としていたところ、社会福祉士会からお声が掛かり、九月～十月中は鋸南町、十一月からは長柄町の災害ボランティアセンター支援に入りました。

休みの日に今までで計五回、朝から夕方頃まで。当初は「社会福祉士なんだから、相談対応でニーズを繋げるのが役割かな？」なんて思い上がった考えを持ってましたが、そんなじゃない。周りにはそんな考えに構っている暇なんかない。手探りの中、経験のある方々の力を借りながら活動し、ミーティングを重ねて反省を次の日に活かして築き上げ、そのノウハウを他の地域にも繋げていく、そんな現場だったと思います。

各地の社協職員、NPO、学生、企業体、そしてボランティア。様々な人達が集まってその地域の人達に何ができるか一生懸命考えていました。私は具体的に①ボランティアとニーズのマッチング作業②駐車場案内と交通整理③ボランテ

イア帰所後の報告受付と高速道路無償の書類手続き④ニーズの現況調査⑤樹木伐採⑥土砂崩れの土砂かき、を五日間で経験。

そこで一瞬一瞬ですが、沢山の方々との出会いがありました。

鋸南町の樹木伐採の現場へ向かう際、助手席に乗っていた方とどうしてボランティアに来たのかという話になり、「東日本大震災の時にボランティアに行けなかったのが心残りだった。思った時に動かないといけないと思った」「社会福祉士が何をやる人かは解らないが、社会福祉士会や社協という組織がこうやって活動していることをもっと報道するべきだよ」と仰っていただいたことが印象的でした。

また、長柄町の土砂かき現場では、重機ありのテクニカルチームというところに派遣。そこには会社の代表やOLさん、看護師やサラーマンなど、日常の立場を超えたボランティアが集まり、一人ひとりが「自分に出来ることは何か」ということに向き合っていました。

二十代の女性の方は、この地域に良くして貰ったから。「ありがとう」と言って貰える承認欲求。今自分がやりたいと思ったから。顔も知らない人達と、立場も関係なく一つの目標に向かっていくことに、日常には無いやりがいを感じることから。と素直な感性で真理を突くような答え。

もう一人の方とは終わった後も遅くまで話し込み、「初めてボランティアに参加した時は自分の無力さを痛感したが、思えばそれが途方に暮れる被災者さんの気持ちに近づく一歩だった。活動を重ねるうちに仲間もでき、互いの得意不得意を補い合って、困ったときに駆けつけ合えるようになった。そんな仲間から、あなたは被災した人と同じ目線で考えることができる人、と言われたのは嬉しかったが、初めの頃の無力感が寄り添う姿勢に繋がったのだと思う。」「世代も所属も立場も異なる同士が、同じ立ち位置で被災者一人ひとりの為に何ができるか話し合い、その時そのチームで出来る最大限の

ことをして、その積み重ねで被災された方の厳しい生活を少しでも変えていく、それこそが醍醐味だと思う。』と。

社会福祉士なんて関係ない。今目の前にある出来ることをやればいい。今はそう思います。

また、その人はこうも言っていました。「被災者と向き合って話をして一緒に考えて、まずは小さなことから一緒に解決をしていくと、次の課題に前向きに取り組めるようになるんですよ」と。それはまさしく問題解決アプローチであり、危機介入アプローチであり、ソーシャルワークを地で体験し活用しているということです。

こういう出会いがあるからこそ、僕はまたボランティアに行こうと思うのです。

皆さんへ、またどこかでお会いできれば嬉しいです。ありがとうございました。

『民間支援団体に聞いてみた』
公益社団法人 SFL 災害ボランティアネットワーク 理事

片桐 卓（かたぎりたかし）

（写真右）

聞き手 広報部会

瀧澤孝悦（たきざわ たかよし）

（写真左）



—SFL（セイフティリーダー）とは、どのような団体ですか？

平成七年の阪神淡路大震災の直後、七月に首都圏で大規模災害が起きたときに復旧復興に携われる防災リーダーを育てようとの思いのもと立ち上げられ、二〇一四年三月に公益社団法人に移行しました。平常時は地域の町会自治会の防災研修、防災訓練等を、災害時には被災地・被災者の支援をする

こと、を目的とする団体です。
— 今回の被災では、片桐さんほどのような支援をされましたか？

九月九日に台風一五号があり、十一日に千葉県災害ボランティアセンター連絡会(※)のなかから核となつて集まれるメンバーで県の災害 VC センターの立ち上げを検討し、十二日の臨時連絡会で決定しました。千葉県ではこのような三者連携が既にできており、今回はその力が発揮されました。その中で、私は南房総市に支援に入ることになりました。十二日から南房総市で打ち合わせに入り、十四日の災害 VC 開設に向けて準備をしました。

その時に決めたのが、「ボランティアの受け入れは市内限定からはじめよう。」そのため、依頼内容にあったマッチングがうまくできたと感じています。

依頼内容はほとんどが屋根のブルーシート張り。あとは、倒木、瓦の撤去など専門的な技術が必要なものが多く、一般的な軽作業のニーズは少なかったです。

私は、総務の補佐として全体的な流れを支援し、県の災害 VC のの橋渡し役を行いました。

十月二五日の豪雨災害では、長柄町で十月三十日から災害 VC を立ち上げることとなり、その準備段階から支援に入りました。

— 気を付けていたことは？

「地元社協の皆さんが自分たちで決める」ことを大事にして動きました。「こうしたほうがいいんじゃないかな？」みたいなところも、まずは、自分たちで決めたことを大事にして関わっていききました。

東日本大震災など過去の教訓からも、いろんな団体が入るなかで、そこに住んでいる人が主導できるかたちで関わる必要があることを強く感じています。

— ソーシャルワークにおける対人支援においても、そのストーリーの主役がだれかという場面に立つことが多くありますが、それに通じるものがありますね。

— やってみてどんなことを感じられましたか？

地元社協の職員さんは自分の地域

が被災して、自分が被災者であるにもかかわらず、みなさん一生懸命動いていました。だから、力になりたいと、より思いました。

これは、楽しい思い出ですけど、南房総市災害 VC で住民の方があたたかいご飯とおいしいおかずを用意してくれました。午前中の疲れをそこで癒してまた頑張れる力をもらえました。南房総市社協のひとつの強みだと思いました。

— 地域の方が災害 VC の運営スタッフを元気づけているというのが、素敵ですね。まさに地域力ですね。地域力といえば、災害 VC を運営していくなかで、地元の消防団や土建の仕事をしている方などが支援にはいつて頑張っていました。

— 結果としてその後につながるということですかね？

そうなんです。その後の復興支援のサポートとして地元力で継続した支援ができるのは素晴らしいなと感じました。

長柄町では、閉所までの最後の二週間(11/15～26くらいまで)で全戸にチラシを配って、訪問して

困っていることがないかを確認する全戸ニーズ調査を行いました。南房総市でもそうでしたが、地元社協の職員の皆さんが、「地域住民に寄り添いたい」という声があり、行動する姿をみて、心を打たれました。「愛情あふれるボランティアセンターに関われてよかった。」と強く感じました。

※千葉県災害ボランティアセンター連絡会とは？

首都圏圏での大規模災害に備えて平成十九年に千葉県社会福祉協議会と日赤千葉県支部が事務局となり、現在は十七団体(千葉県社会福祉士会も加入しています)が所属する組織です。千葉県の地域防災計画に基づき、千葉県災害ボランティアセンターの運営を行い、県内の市町村における災害ボランティアセンターに対し、ヒトや物の支援を行う組織です。

『専門性の発揮と土砂かき』
総務委員長 山口 利史

(やまぐち としふみ)



(右) 榎林元樹氏 (真ん中)
依頼者のご夫妻 (左) 執筆者

県内での活動

千葉県社会福祉士会のガイドラインに基づく「被災地支援活動協力員名簿」には、六七名がボランティア登録をしています。九月の台風十五号以来、台風十九号、そして十月二四日の豪雨被害と千葉県内も大きな被害があり、各地で災害ボランティアセンターが立ち

上がりました。被災地支援活動協力員となっている社会福祉士は、千葉県内の災害ボランティアセンターの運営支援に入りました。
社会福祉士はどのように専門性を発揮していたか？

①依頼受付では

被災者の苦勞、不安ははかりしれません。そのような中、ご自身で依頼内容を整理して伝えることも大変です。それは、濡れた畳や家財の運出し、倒木の撤去、瓦が飛んだのでビニールシートを張ってほしい、床下の泥かき出し等ですが、詳細な情報を聞いておかないと作業量の見積ができません。傾聴の技術は、電話や窓口でそれを受け止め、ボランティアへの依頼内容を整理する際に心強いものでした。

②現地調査では

依頼者とボランティアとのやりとりがスムーズにいかないことや周囲が心配しても訪問を受け入れていない方もいます。コミュニケーションが難しい依頼者宅に、社会福祉士が訪問しアセスメントす

ることで、滞りかけた支援につなげることができました。

③マッチングでは

依頼内容に応えるためには、ボランティアのグループを作るだけでなく、プロボノ団体の方々との調整のうえで、一緒に動いてもらえるようコーディネートすることもありました。多職種との調整技術が活かされました。

④送り出し・迎え入れでは

笑顔で送り出し、戻ってきたボランティアの想い、情報をしっかりと受け止めます。ミーティングでは、その情報が他の担当の運営の改善につながることが多いです。

土砂かき等のボランティア活動

会のホームページでは、土砂かきなどボランティアへの参加も呼びかけました。県内に限らず、他県の災害ボランティアセンターの情報も紹介しました。

いわき市では、堤防が決壊し浸水被害がでました。私が訪問した活動先では、床板を剥がす専門技術のあるプロボノ団体の方の指示を仰ぎ、大学生のボランティアと

一緒に床下の泥のかき出し等の作業をしました。

休憩時間には、お宅のご夫妻のお話を聞かせていただきました。家が浸水し、床下の泥だしが必要だと知ったのですが、大工に連絡するが、忙しくなかなか来てもうえずどうしたらいいのかわからないうです。奥様は「知り合いから、災害ボランティアセンターを紹介してもらった時には、ほっとして涙がでてきちゃった」と笑顔で話をされていました。

その笑顔には、大変な中での強さに尊敬の念を抱きました。また、元気をもらいました。土砂かき等で汗をかくことで接することができこの依頼者の笑顔は、ボランティアセンター運営に関わる一人ひとりの頑張りのつながる先です。社会福祉士の専門性をどう発揮するかは自分次第です。被災地支援で、利用者本位のイメージを持つために、土砂かき等の活動は私を成長させてくれる場だと思いません。

『所感（自ら関わることで見えること）』

聖徳大学 心理・福祉学部

社会福祉学科

須田 仁（すだ ひとし）



この度の台風十五号・十九号及び十月の集中豪雨により、被災された皆様に対し御見舞い申し上げます。

上記の記事を読ませていただき、自分なりのポイントをまとめてみました。一つ目は社会福祉士としてどうすればいいのか、常に問われるということです。その専門性はどこにあるのか、ニーズキャッチなのか、連携・調整なのか、直接援助なのか（土砂かきも含めて）。二つ目は普段のネットワークとの繋がり、災害時の支援

の大小に関わることです。併せてできる限り被災地主導で支援を進めていくこと。そのためにも被災地の職員を外部から支援する人・団体が必要になること、です。被災地支援ではワーカー個人で対応することには限界があります。地域のネットワークの構築、外部からの支援者・団体の受け入れも重要だということです。

被災地支援では短いスパンのPDCAサイクルを回す必要があります。そのほとんどが一日単位での対応です。なぜなら状況が刻一刻と変化するからです。ソーシャルワーカーはPDCAサイクルとソーシャルワークの援助過程をリンクさせ、常に意識して行動することが求められます。「今、何が求められているのか」「次は何かが必要になるのか」「どんな社会資源があるのか」「何ができるのか」「ゴールはどこに置くのか」等々被災者や様々な支援者と一緒に考え、話し合い、まさにソーシャルワークを発揮するのが被災地支援だと思います。被災してしまった住民に對

して、寄り添いつつどんな支援ができるのか、それは所属している機関で対応できる・できないことなのか、できなければどうすればいいのかを問われるのが被災地の現場です。

私は社会福祉士養成に携わる教員でもあります。学生たちにはソーシャルワークの重要性、被災者に寄り添いつつ、様々な人たちと連携をとって支援する、究極の場面が被災地支援だと思い、できる限り支援に携わって欲しいところです。

千葉県内のソーシャルワーカーへのメッセージがあります。報告の中でもありましたが、我々はいっ被災するか分かりません。「被災する」ことを前提に普段からの準備が重要です。それは支援のためのネットワークを構築すること、地域アセスメントをしておくこと、外部からの支援者や団体を活用するための受け入れ体制（受援）準備をすることです。通常業務の延長上に被災地支援があります。さらに机上訓練ではわからないこと

が現場では起きます。自らが支援者として関わることによって「自分のところで災害が起きたら…」と考えることもできるでしょう。その経験はきつと支援を必要とする人たちを助けることになるはず

社会福祉士のわ

鎌ヶ谷市社会福祉協議会

青木 渉

(あおき わたる)



鎌ヶ谷市社会福祉協議会の青木

と申します。四街道社協の及川さんから、バトンタッチしました。まずは、私の自己紹介から。私は福祉系大学を卒業後、社会福祉士の資格を取得し、茨城県阿見町の高齢者のグループホームに約二年介護職員として勤務し退職。その後、鎌ヶ谷市社会福祉協議会に入社し約十六年が経過しました。現在、私は総務係に属しており、主に人事関係と総務業務に従事して

います。しかしながら、鎌ヶ谷社協は少数精鋭体制で、貸付業務に顔を出してみたり、日常生活自立支援事業に顔を出してみたり、ボランティア事業に顔を出してみたりと社会福祉士として力を十分に発揮？しております。

突然ですが、皆さんは自己紹介される時に、「社会福祉士の〇〇です。」と自己紹介されますか。職種にもよるかもしれませんが、私はしません。名刺にも記載されていません。相手の名刺などに社会福祉士だと記載されていたら、私も「なんちゃって社会福祉士です」と言っています。

どうしてそのように表現するか、それは自信がないのです。なんちゃって社会福祉士と言って誤魔化し、自らに保険を掛けています。でもなぜか、千葉県社会福祉士会主催の研修『社会福祉士について：知りたい人！「この指とくまれ！」』の講師の打診がありました。「この指とくまれ」の企画書には「私の仕事は社会福祉士として、こんなことしています」（五人の

社会福祉士が登壇）」と記載されていきました。今の仕事は人事関係と総務業務で全然社会福祉士っぽくないけど、いいのかな、大丈夫なのかと思いつつも、承諾。悩みながらも、私なりに説明しました。いや、正確には社協の役割についての話をメインにしました。「社会福祉士だからこそ、できる話をして下さい」と担当者の方に言われていましたが、研修委員会の皆様、ごめんなさい。でも、改めて社会福祉士って何って考える契機になりました。

そもそも、社会福祉士って多岐にわたっていて、これをやっている社会福祉士という姿がイメージできない職種で、業務独占資格でもありません。でも、社会福祉士の資格を持っているのだから、出来れば堂々と社会福祉士と名乗ってみたい。こんな時に私が確認するものがあります、それは社会福祉士の倫理綱領と社会福祉士の行動規範です。皆さんは見たことありますか。倫理綱領と行動規範のQRコードを作成したので、

良かったら見て下さい(※)。困った時の道しるべだと私は思っています。

倫理綱領と行動規範を読んで、これこそが社会福祉士と思う一方で、社会福祉士は難しい、やっぱりなんちゃって社会福祉士でもいいやと思ってみたり、複雑な気持ちがあふれたりします。

いつか、なんちゃって社会福祉士を卒業し、皆様に自信を持って社会福祉士ですと自己紹介できるようになりたいと思います。



※日本社会福祉士会の倫理綱領

佐倉・四街道・八街地区及び
印西エリア(西いんば地
区)ソーシャルワーカー研究
会) 合同地域集会

社会福祉法人愛光

障害者生活支援センターアシスト

相談支援専門員

古澤 充健

(ふるさわ みつたけ)



佐倉地区及び印西・成田地区は
印旛圏域という保健所圏域を同一
にし、活動地域も重なる地域であ
る。以前より合同での地域集会の
企画案が出ていたものが結実した
と言える。実施までに多くの関係
者の協働があったことも特筆した
い。佐倉地区前世話人の秦野氏や
中核地域生活支援センターの協力

成田赤十字病院のソーシャルワ
ーカーの浅野氏の研修内容部分での
全面的な協力も得ることができた。
中核センターや医療との連携、巻
き込みの原動力となったのは印西
エリア地域世話人の赤堀氏の人柄
や意欲、また地域で築いてきた分
野横断的な人脈に依るところが大
きかった。私は県社士会事務局と
の連絡、文書作成や会計などを担
当するなど、各人の尽力で合同地
域集会を形にすることが出来た。

昨年十二月の地域集会は研修内
容も充実し、HIVとエイズの違
いや、服薬を続けられ平均的余命
を送ることが出来るようになった
ことなど、知らなかったこと、誤
解していたことが正しく理解でき
るものであった。感想の中に「約
二十数年前の薬害エイズのニュー
スの頃で知識が止まっていた」と
の記述があり、知識や情報のアッ
プデートが支援職にとっては欠か
せないものであることが改めて実
感できるものとなった。

研修後は交流時間を多く取り、
活動地域を同じくする者同士の名
刺交換が盛んにおこなわれ、顔の
見える関係づくりの場となった。
今回の合同地域集会、研修は知

識情報のアップデート、顔の見え
る関係づくり、福祉と医療の連携
の面でとても良いものになったと
感じる事が出来るものとなった。
講師、関係者、参加者の皆様に謝
意を表したい。

拡大地域集会に参加して

浦安・市川・松戸地区世話人

樽林 元樹

(くればやし もとき)



十二月十五日、拡大世話人会が
開催されました。柏で行われてい
る福祉道場のお話からはじまり、
みんなでサイロトーク、グルー
プワークでは、どんな地域集会な
ら参加してみたいかをテーマにみ
んなでアイデアを出し合いました。
私が最もわくわくした企画は、
「焚火を囲みながら語り合
う!!!」こんな楽しそうなこと
ぜひとも参加したい!!いや、企画

してみたいと思いました。

私も浦安・市川・松戸地区の世
話人です。残念ながら今まで地域
集会を開催できずにおりました。
今回、この拡大世話人会で、参加
したみんなからエールを頂いたの
だと思っています。この会の最後に、
勢い余って浦安地区での地域集会
の開催についてみんなに宣言いた
しました。「お花見をします!」と。
残念ながら新型コロナウイルスの
影響で三月の実施は泣く泣く見送
りとなりますが、落ち着いたら、
何かみんなで集まってワイワイで
きたらいいなと思っています。

●浦安・市川・松戸に在住が在勤
の方で、一緒に企画を楽しみな
がらやってくれる仲間を募集中で
す!下記までご連絡ください。
e-mail: notoki9084@gmail.com
(樽林まで)

がんばろう千葉
観光編

南房総に遊びに行こう！！

テーマ：子供を安全に遊ばせながら気軽な日帰り旅行を楽しむ

日本酪農発祥の地
千葉県 酪農の里



住所：南房総市大井 686
Tel：0470-46-8181

酪農の里でヤギや白牛と楽しんだあとは、千倉の潮風王国や白浜の野島崎灯台へ行くのもおすすめです。



紹介者
南房総市社会福祉協議会
鈴木 祐太さん

野島崎灯台

周りに食堂も多くあって
昼食探もしやすいよ



住所：南房総市白浜町白浜 630

頑張って上った
先は絶景！！

道の駅ちくろ
潮風王国

岩礁での磯遊びも
気軽にできるね



広大な芝生で
走り放題！

住所：南房総市千倉千田 1051

うまいもの編 多古米おいしいよ！

紹介者
多古町地域包括支援センター
平野香さん親子

多古町は農業が盛んな町で、なかでも『多古米』と呼ばれるお米の生産が盛んです。昨年九月の台風十五号は、多古町に甚大な被害をもたらしました。米の収穫が終わる直前に台風が襲来し、黄金色に実った稲穂が暴風雨によってなぎ倒されてしまいました。また、倒木の影響により十日以上続いた停電のために、刈り取った稲を乾燥するための乾燥機を動かすことができずに、台風が過ぎ去っても稲刈りすることすらできない農家も多くいました。地面についた稲が、少しずつ発芽してしまう様子も心が痛みました。台風の被害は田んぼだけにとどまらず、苗を育てる育苗ハウス（ビニールハウス）までも倒壊し、いまだにつぶれたままでも再建できていないハウスも多いのが現状です。いくつもの困難が重なり、例年に比べると量は少ないですが、多古米は今年も店頭や通販などで購入することができます。

ぼくのおじいちゃんは、米農家です。おじいちゃんのお米は、『多古米』と呼ばれるコシヒカリという種類のお米です。多古町は昔、湖や沼が多かったところで、多古米をつくる田んぼは、ミネラルが多い粘土質で、米づくりにとても適しているそうです。多古米は、粘り気が強く、甘みがあって、冷めてもおいしいお米です。「おかずのいらない米」とも言われています。また、寿司米としても人気が高く、「シャリなら多古米」とこだわる寿司屋さんもたくさんいます。多古米で作ったおにぎりはとてもおいしくて、ぼくは大好きです。ぼくは、具合が悪い時でも、おじいちゃんのお米を食べて元気になります。多古米は、道の駅「あじさい館」などで買うことができます。みなさんも多古町に来たら、道の駅に寄って多古米を買ってみてください。おいしいよー！



事務局便り

暖冬とはいえ長い冬が終わり、待ちに待った春が来ました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。年度末や年度初めの準備でお忙しい日々をお過ごしのことと思います。くれぐれもご自愛ください。

いよいよ東京で7月にオリンピック、8月にパラリンピックが開催されます。千葉県でも、それぞれ4競技が開催されます。どんなドラマがみられるのでしょうか。

研修等・行事のお知らせ

※4月以降、順次開催する研修の申込案内をホームページに随時掲載致します。

また、研修等が新たに決定した際にはホームページに随時掲載いたします。是非チェックしてください。

千葉県社会福祉士会ホームページ：<http://www.cswchiba.com/>

【以下、新年度研修予定】

- ・研修委員会-基礎研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、実習指導者講習会他
- ・権利擁護センターぱあとなあ千葉運営委員会- 必須登録員研修、レベルアップ研修、成年後見活用講座、ぱあとなあ千葉サポート、テーマ別弁護士との事例検討他
- ・司法福祉委員会-刑事司法ソーシャルワーカー養成講座（基礎編）、（応用編）

会員の皆様へお願い

- ・2020年度年会費引落のお知らせ【重要】

年会費 15,000 円と引落手数料 121 円の合計 15,121 円を 2020 年 4 月 13 日（月） にご指定の口座より引落させていただきますので残高不足等がないようにご確認をお願いいたします。

- ・お名前・ご住所・電話 FAX 番号・お勤め先等が変更となった場合、変更届の提出が必要です。ご不明の点は事務局までお気軽にご連絡ください。

ようこそ！千葉県社会福祉士会へ

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
林 香七重	松戸市	HITOWA ソーシャルワークス(株)	長田 英文	南房総市	社福) 南房総市社会福祉協議会
熊谷 智宏	—	医) 弘仁会 介護老人保健施設 ロータスケアセンター	武内 隆介	千葉市	特定非営利活動法人ろーたす fuji
山田 泰志	松戸市	DS セルリア(株) トータルリハセンター北松戸	南里 亮子	千葉市	社福) 創仁会 東葛医療福祉センター光陽園
倉本 陽子	—	松戸市教育委員会 教育研究所	前田 文恵	茨城県	社福) 笑顔 特別養護老人ホーム からたち
滝澤 洋	—	市川市障がい者施設課 フォルテ行徳	齋藤 湧真	柏市	—
萩原 久仁雄	成田市	更生保護法人 千葉県帰性会	田中 香里	松戸市	—
和田 千鶴子	浦安市	—	岡田 雄三	船橋市	社福) 夢のみずうみ村
山本 晃	富里市	—	白石 直美	野田市	—
江村 希恵	柏市	社福) 柏市社会福祉協議会	高橋 友和	千葉市	医) 淳英会
準会員					
佐藤 香織	—	—			

正会員登録書「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。（順不同・敬称省略）

令和2年1月14日現在の会員数

正会員 1,515 名、 準会員 6 名、 賛助会員 2 名 合計 1,523 名